



平成13年度のJ-STAGE機能拡張について

今年度も一層使いやすいJ-STAGEシステムを提供するために、昨年度に引き続き機能拡張を行います。今回は、その概要についてお知らせいたします。

1. 書誌事項入力ツール

書誌事項データの作成につきましては、テキストデータを元に、簡単にSGML形式の書誌事項データが作成できる支援ツールを開発します。このツールはWindows、Macintoshの両方に対応いたします。その他にも、組版編集ソフトDiovで作成したデータをJ-STAGE SGML形式に変換するツールの提供や、現在提供しているAccess97を用いた簡易入力ツールのAccess2000への対応等を予定しています。

2. 引用文献リンクデータ作成の簡易化

引用文献リンクデータにつきましても、データ作成の効率化を図るために、ある程度規則に則った記述をしていただければ、J-STAGE側で自動的に引用文献リンクのためのタグ付けデータを生成するような仕組みを開発する予定です。また、タグ付けを効率的に行う支援ツールも、別途、開発する予定です。

3. 大会演題登録システムの機能拡張

大会演題登録システムを利用して登録された演題を元に、J-STAGE上で予稿集の公開ができるようにシステムを改良いたします。また、蓄積したデータを容易に印刷物にできるよう、PDF形式等での出力を可能にします。

4. アクセス統計機能

掲載されているジャーナルがどの程度アクセスされているか知りたいとのご要望に応えるため、論文本文のPDFファイルがダウンロードされた件数を、論文毎に毎月学会事務局にメールで送る機能を開発します。

5. リンクの拡張

J-STAGEの引用文献からJOIS、PubMedへのリンクを実現していますが、リンクの拡張について検討を進めております。CASが提供している全文データリンクサービスChemPortとの双方向のリンクや、相互リンクのためのプロジェクトCrossRefへの参加を検討しており、更にISIのWeb of Scienceからのリンクに関しても検討に着手しました。これらの拡張によって、J-STAGEに登載されている論文へのリンクも充実させていきます。

6. トップページ改良

現在はJ-STAGEに登載されているジャーナルの一覧をトップページに表示していますが、雑誌数が増えるに従って、見たい雑誌を探すのが難しくなってきました。そこで、アルファベット・50音別の目次を用意し、また、ジャーナル名、学会名でも検索できる様にトップページを改良します。

平成13年6月時点で、主に上記のような機能拡張を予定しておりますが、J-STAGEに関するご意見・ご要望がございましたら、随時、JST情報加工分析部電子ジャーナル部門 (contact@jstage.jst.go.jp) までお寄せください。



利用者からの声

今回は、J-STAGEをご利用いただいております日本放射線影響学会の古澤先生にお話を伺いました。日本放射線影響学会では、「Journal of Radiation Research」誌を発行しており、2001年6月11日現在、J-STAGEには1999年Vol.40が掲載されております。今後、順次掲載をし、秋頃には冊子体に追いつくよう掲載を進める予定だそうです。

—J-STAGEを導入しようとお考えになったきっかけを教えてください。

1999年の秋、Webで雑誌を公開する手段をインターネットで探していたときにJ-STAGEを見つけたのが初めです。なぜ、Webで公開しようと考えていたかと言うと、インパクトファクターを上げようという話が編集委員の中で出ており、(インパクトファクターを上るためには、)ジャーナルのサーキュレーションを上げるのが一番良い方法だという結論に辿りついたからです。Webで公開すれば本自体のサーキュレーションが無くとも見られます。例えばPubMedに収録されているような雑誌には、ネット上で原文に辿り着けるようなものがあります。そういうものについては、サーベイした結果、検索されれば外国の人が図書館などに行かずに見ることができ、(論文が)引用される可能性が広がるのであろうと思います。

—「Journal of Radiation Research」誌は、PubMedに収録されているとのことですが。

そうです。そういう意味でもPubMedからJ-STAGEへのリンクが大至急欲しいのです。最初に話を伺ったときにPubMed、ChemPortにリンクすることだったので、これはいけると思ったのですが、現在はJ-STAGEからのリンクだけで、J-STAGEへのリンクはまだですね。

—ChemPortについては、双方からのリンクの検討を進めています。PubMedについても検討を進めたいと考えています。

インパクトファクターが上がるかどうかはJ-STAGEにかかっていると言っても過言ではないと思います。他の学協会もJ-STAGEへのリンクを非常に望んでいるのではないかと思います。

—J-STAGEを導入されて大変だと思われた事を教えてください。

今まではそんなに抵抗はありませんでした。むしろこれから出てくるのではと思っています。編集のためのFrameMakerの入力画面があまりフレンドリーではないので、毎月発行しているジャーナルであれば良いのですが、「Journal of Radiation Research」誌のように年4回発行の場合は、忘れた頃に作業をしなければならず、マニュアルを見なければなりません。マニュアルなども専門

用語が多くわかりにくいときがあります。また、編集部用のページから何でもできるようになりすぎていて、フレキシビリティをもたせるが故に使いにくくなっているところがあるかもしれません。



古澤 佳也先生
放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター
主任研究員 (医学博士)。日本放射線影響学会発行
「Journal of Radiation Research」誌の編集委員。

編集部用の画面を2種類用意し、ルーチンに使うものについては必要機能だけ使えるようにし、細かいところを調整できるものが別にあるとよいかもかもしれません。

—現在、J-STAGEの電子ジャーナル公開機能のみをご利用いただいておりますが、今後他の機能を利用される予定などはありますか。

予定は無いのですが、私の心づもりでは、導入して行きたいと思っています。まだ、会員の方が電子投稿の方法に慣れていないので、まずは学会参加の大会演題登録みたいなものから始められればと思っています。実は今年の大会は大会事務局がホームページを立ち上げ演題を登録できるようにしていますが、J-STAGEとは別のシステムを使っています。もし、J-STAGEの大会演題登録が使いやすく、ジャーナルの電子投稿機能と同じようなシステムになればジャーナルへの電子投稿につながると考えています。—大会演題とJ-STAGEの統一化も重要だということですね。

むしろ、どの雑誌に投稿する時も同じような方法、フォーマットで投稿できるというようなスタンダードがあれば電子投稿が増えるかもしれませんね。
—どうもありがとうございました。

● 利用学会意見交換会を開催

6月28日にJST東京本部地下1階ホールで、J-STAGE利用学会意見交換会を開催し、57名の方にお集まりいただきました。

交換会では、JST側から、3月15日に開催いたしました利用学会懇談会の際にいただいたご意見、ご要望事項に対する検討結果や今年度の開発項目等についてご報告し、さらに、財団法人日本学会事務センター清水様より、同センターが昨秋から独自に開発を進めていた「オンライン投稿・審査・公開支援システム」のご紹介をしていただきました。

ディスカッションの場では、J-STAGEに掲載されているジャーナルの統合的な検索や、複数のジャーナルから特定のテーマの論文を集めて1つのジャーナルとする「パー



チャルジャーナル」のご要望等がありました。また、J-STAGEの長期ビジョンについてのご質問も出ました。

ご要望等を反映し、より多くの方にご利用いただけるJ-STAGEを目指し、開発を進めていきたいと考えております。

● 印刷用版下作成方法についてのアンケート調査を実施

J-STAGEにおける電子ジャーナル掲載機能の充実化に向けて、今後具現化すべき機能の前提条件を正しく把握する目的で、4月下旬に「学術雑誌等の印刷用版下作成方法についてのアンケート」を実施しました。今回の調査では、J-STAGEニュースを配布している学会を対象にして、利用している版下作成システムとプラットフォーム（OS）の種類についてアンケート調査票で問い合わせる方式で実施し、170件の回答をいただきました（13%の回答回収率）。

集計結果から得られた印刷用版下作成に関する現在の傾向は以下の通りです。

1. 版下作成システム

- ・DTPシステムが68%、電算植字システムが32%の比率で利用されている。
- ・DTPシステムでは、QuarkXPressとPageMakerの利用が多い。
- ・QuarkXPressは、Macintosh（Power Macintoshを含む）版の比率が断然高い。

2. プラットフォーム（OS）の種類

- ・Mac OSが46%、Windowsが38%、UNIX他が16%の比率で利用されている。
- ・Mac OSの利用バージョンは、分散している。

（主にバージョン8.1とバージョン8.6およびバージョン9.1の利用が多い）

今回の調査で、Mac OSへの対応の重要性を確認できました。この成果を電子ジャーナル掲載機能の充実化に反映させていきたいと考えています。

● 京都にて利用者懇談会を開催

さる4月23日（月）に京都でJ-STAGE利用者懇談会を開催し、中西印刷様対応の学協会（日本細胞生物学会、日本NPO学会、日本生物工学会、日本衛生学会、日本微生物生態学会）の方々にお集まりいただきました。

懇談会では、JST側からJ-STAGEの現状報告、平成12年度J-STAGE運用・開発の概要報告、リンクの現状報告（ChemPort、CrossRef）、新たにサービス提供を開始した「新着案内の機能」についての説明をさせていただきました。

さらに続いて「平成13年度J-STAGE開発検討項目の概要について」の報告を行った後、ディスカッションに移りました。本文閲覧情報のHTML化、リンク先の拡大、投稿画面の改善など、実際にJ-STAGEを利用した上での、感想、機能の追加、改善等についての要望、PubMedからのリンク、ISIとのリンク等の要望を頂きました。特にリンクに対する期待が大きく、更なるリンク機能の充実を図るとともに、今後も定期的にこのような場を設け学協会側の多様なニーズを反映させたJ-STAGEとすることを確認し、懇談会を終えました。中西印刷様には会場の提供、懇談会の準備等大変お世話になりましたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。



J-STAGEで公開している雑誌一覧

平成13年6月14日現在、42誌の雑誌がJ-STAGEに連載されております。雑誌名および発行学協会名は下記の表をご覧ください。

雑誌名	学会名	雑誌名	学会名
Acoustical Science and Technology	(社)日本音響学会	Journal of Toxicologic Pathology	日本毒性病理学会
ACTA HISTOCHEMICA ET CYTOCHEMICA	日本組織細胞化学会	Journal of Veterinary Medical Science	(社)日本獣医学会
Bulletin of the Chemical Society of Japan	(社)日本化学会	Microbes and Environments	日本微生物生態学会
Cell Structure and Function	日本細胞生物学会	Optical Review	(社)応用物理学会(日本光学会)
Chem-Bio Informatics Journal	情報計算化学生物学会(CBI学会)	Progress of Theoretical Physics	理論物理学刊行会
Clinical Pediatric Endocrinology	日本小児内分泌学会	RADIOISOTOPES	(社)日本アイソトープ協会
Environmental Health and Preventive Medicine	日本衛生学会	The Japanese Journal of Pharmacology	(社)日本薬理学会
Japanese Circulation Journal	(社)日本循環器学会	Zoological Science	(社)日本動物学会
Japanese Heart Journal	Japanese Heart Journal Association	可視化情報学会論文集	(社)可視化情報学会
Japanese Journal of Applied Physics	物理系学術誌刊行協会	源流	科学技術振興事業団
Journal of Chemical Software	化学ソフトウェア学会	コンピュータソフトウェア	日本ソフトウェア科学会
Journal of Computer Aided Chemistry	(社)日本化学会・情報化学部会	資源と素材	(社)資源・素材学会
Journal of Equine Science	日本ウマ科学会	情報管理	科学技術振興事業団
Journal of Nippon Medical School	日本医科大学雑誌編集委員会(日本医科大学医学会)	生物物理	日本生物物理学会
Journal of Physical Therapy Science	理学療法科学学会	電気製鋼	電気製鋼研究会
Journal of Physiological Anthropology (Applied Human Science)	日本生理人類学会	ノンプロフィット・レビュー	日本NPO学会
Journal of Radiation Research	日本放射線影響学会	日本原子力学会欧文論文誌	(社)日本原子力学会
Journal of Smooth Muscle Research	日本平滑筋学会	日本繁殖生物学会誌	日本繁殖生物学会
Journal of Structural and Functional Genomics	理化学研究所ゲノム科学総合研究センター	日本分子腫瘍マーカー研究会誌	日本分子腫瘍マーカー研究会
Journal of the Japanese Physical Therapy Association	(社)日本理学療法士協会	日本レオロジー学会誌	日本レオロジー学会
Journal of the Physical Society of Japan	(社)日本物理学会	プラズマ・核融合学会誌	(社)プラズマ・核融合学会



スタッフ異動の挨拶

平成13年4月1日付の人事異動により、J-STAGEを担当しております電子ジャーナル部門のスタッフが変更となりました。平成13年度の電子ジャーナル部門のスタッフは、宮川謹至（主任情報員）、白木澤佳子、佐藤恵子、松谷英夫、細田政夫です。また、当事業団の組織改編に伴い、電子ジャーナル部門が所属しておりました文献情報部が、情報加工分析部と名称を変更いたしましたので、併せてお知らせいたします。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

■ 編集後記 ■

♪6月14日～15日、札幌で開催された専門図書館協議会全国研修会でJ-STAGEのデモとプレゼンを行いました。担当して早や3ヶ月。このような活動を通して、J-STAGEへの期待の大きさと責務の重さを肌を感じる今日この頃です。(宮)
♪「今、どんな仕事をしているの?」と聞かれ、「J-STAGE」と答えると、「J-STAGEって何?」と聞かれ、しばらく説明することがしばしば。「あのJ-STAGEね。」と言われるよう、頑張りたいと思います。(さ)

★ J-STAGEおよびJ-STAGEニュースに関するご意見・ご質問をお待ちしております。
JST情報加工分析部 電子ジャーナル部門 (contact@jstage.jst.go.jp)

J-STAGEニュース No.2 2001年6月30日



<http://www.jstage.jst.go.jp>

編集 科学技術振興事業団 情報加工分析部 電子ジャーナル部門
 発行人 情報加工分析部長 西田龍正
 住所 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
 電話 03-5214-8455 (ダイヤルイン)